

徳島県立博物館

No.15

博物館 NEWS

ニュース



- *Culture Club* 守住貫魚の画風について
- 館藏品紹介 画文帯神獣鏡【複製】
- 企画展 祖谷—その自然とくらし
- 情報ボックス CD-ROMソフト【Dinosaurs!】

表紙：ソバ畑（東祖谷山村 奥の井）

守住貫魚の画風について

大橋 俊雄

はじめに

守住貫魚は、幕末から明治にかけて活躍した住吉派の画家です。彼は、60歳で明治維新を迎えるまで、絵師として阿波の蜂須賀家に仕えます。その後、明治10年代から20年代にかけて、内国絵画共進会や日本美術協会展に出品して度々受賞し、皇室技芸員にも就任しています。当時の彼の活動は華々しいものでしたが、現在ではその存在がやや忘れられているようです。ここでは、近年一部で知られるようになった貫魚の画風について述べてみたいと思います。

貫魚の経歴

まず最初に、貫魚の経歴について少し触れておきます。

彼は、文化6年(1809)に阿波国徳島藩の銃手の家に生まれます。姓は庄野、名は徳次郎で、住吉派に入門した頃に守住姓に改めたようです。

文政7年(1824)、16歳のときに貫魚は江戸へ出ます。そして住吉派の渡辺広輝に学び、輝美と名乗ります。天保5年(1834)頃に、広輝の師住吉広定に入門します。そして一橋徳川家の障屏画製作に参加し、これが認められて定輝と改名します。天保9年に、30歳で徳島藩の絵師になり、安政元年(1854)に、広定が弘貫と改名したのにもない名を貫魚とします。安政2年には、京都御所の再建にあたり、紫宸殿の障子絵「朝賀図」を描きます。

明治維新後、一時神社の神官になりますが、明治13年頃に大阪に移住します。明治15年、第1回内国絵画共進会に「船上山遷幸図」を出品して銅印を受けます。2年後の第2回共進会では、「宇治川先登図」「登龍図」を出品してただ一人金印を受け、審査官に選ばれます。またこの時期、大阪の浪華画学校設立のために尽力し、大阪絵画共進会を開催します。

明治20年、皇居内の宮殿造営にあたり、杉戸に「機織図」と「棕櫚図」、小襖に、「虫撰図」を描きます。明治23年、82歳のときに皇室技芸員に選ばれ、同じ年に、日本美術協会展に「紫式部石山寺観月図」を出品して金牌を受賞します。没したのは明治25年で、享年84歳でした。

一般に貫魚は、明治時代の画家として扱われます。しかし彼の経歴をみると、30歳から60歳までの、年齢的に最も充実した時期を、藩の御用絵師として過ごしています。貫魚を、幕末の住吉派の画家として位置づけた方がよいのかも知れません。これは作品の上からも言えますが、本題からはずれるので省略します。

貫魚の画風

貫魚の作品では、古典を題材にした歴史画や物語絵が多数を占めます。そのなかには、入念に彩色をほどこす着色画と、部分的に淡彩を加える墨画の二種類があります。以下に後者の例をあげてみます。

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 源氏物語 明石図 | 徳島城博物館蔵 |
| 2 源氏物語 初音図 | 逸翁美術館蔵 |
| 3 源氏物語 須磨図 | 徳島県立博物館蔵(図1) |
| 4 源氏物語 花宴図 | 徳島県立博物館蔵 |
| 5 源氏物語 画帖 | 徳島県立博物館蔵(図2) |
| 6 仁徳帝 高屋之図 | 個人蔵 |
| 7 源氏物語 初音図(粉本) | 徳島県立博物館蔵 |
| 8 源氏物語 蓬生図(粉本) | 徳島県立博物館蔵(図3) |

上のうち、1～6本は絹本に描かれています。7、8は、手元に置いて参考にするため、貫魚自身が自分の絵を紙に引き写したものと思われます。ちなみに2と7は、同じ画題ですが構図はまったく異なります。

1～6では、人物や建物、草木、土坡などを細密な墨の線で描き、やわらかい濃淡のぼかしをつけ、緻密で繊細な表現をおこなっています。彩色

は、墨の調子を生かすために部分的に淡くぬるにとどめ、余白には金泥で霞を引いています（図参照）。7, 8は本画の写しですが、墨のつかい方が1～6に大変近いので、もとの絵もやはり同じ表現をしていたと思われます。

ところで、1の源氏物語明石図は、こうした表現がもっとも成功した例といえます。描線がのびやかなので、人物に量感が感じられます。また樹葉などでは、濃淡による陰影がたくみに表されています。2の源氏物語初音図は、この明石図と表現がちかく、落款も似ているので、ほぼ同じ時期に描かれたと考えられます。6の仁徳帝高屋之図は、緊張感のある描線をもちいており、やはり完成度の高い作品として注目されます。

前に述べたように、貫魚の名前は安政元年から使いはじめ、それ以前は定輝でした。そこで落款をみると、1～5は貫魚銘ですが、6は定輝銘です。また表現を比べると、6は1, 2より初々しいところがあり、少し早く描かれたように思えます。貫魚は、すでに御用絵師時代からこうした絵を描いていたのではないのでしょうか。

（当館学芸員：美術工芸担当）



図1 源氏物語須磨図

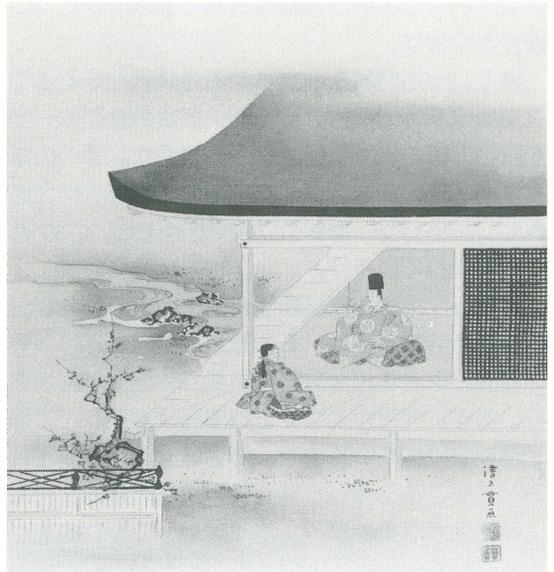


図2 源氏物語画帖



図3 源氏物語蓬生図（粉本）

画文帯神獣鏡【複製】

古墳には死者とともに武器や装飾品など多くのものが副葬されます。なかでもほとんどの古墳に必ずといってよいほど副葬されるもののひとつに鏡があります。

鏡といっても現在私たちが普通に目にするようなガラス製の鏡ではなく、丸い板状の金属の一面を磨いてピカピカに仕上げたものです。多くの場合は銅、錫、鉛などを混ぜ合わせた青銅という金属で作られているために、青銅鏡あるいは銅鏡とも呼ばれています。

鏡としては使わない裏面には、中央にひもをとおすための鈕と呼ばれる半球状の突起があり、その周囲にはさまざまな種類の文様が銘文が描かれています。考古学では、この裏面の文様などで鏡を種類分けしているの、博物館などに展示されるときもこちら側しか見えないように展示されている場合がほとんどで、本来鏡として使われたピカピカの表面を見る機会はほとんどありません。

画文帯神獣鏡とは、鏡の裏面の文様が神、獣、すなわち中国の神仙思想にもとづく神像と獣像の文様が半肉彫りされており、その周囲に絵や文字の帯がめぐっていることから、そのように呼ばれているものです。

今回ご紹介する複製品の原資料は、鳴門市大麻町の萩原1号墓から出土した鏡と同じ鋳型からつくられた鏡(同范鏡)、あるいは同じ原型をもとにしてつくられた鏡(同型鏡)で、まったく同じ大きさ、同じ文様のいわば兄弟関係にある鏡です。朝鮮半島北部、現在の北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の平壤付近から出土したと伝えられており、慶應義塾大学文学部人類学・考古学教室の所蔵となっています。鳴門市から出土した鏡の兄弟が遥か離れた朝鮮半島から出土したことはたいへん興味深いことです。

萩原1号墓から出土した鏡の一方は、副葬されるときにわざと鏡をバラバラに砕いて副葬したものの(破砕鏡)で欠損部も多く、全体の文様を見ることはできません。しかし、同じ文様で完全な形を残したこの鏡の文様を細かく調べることで、欠損部の復元なども可能となります。



図1 画文帯神獣鏡【複製】



図2 本来の表面(鏡面)

また、青銅製の鏡は、普通土の中に埋もれている間に錆が進んで、全体が青緑色の錆で覆われてしまうことが多いのですが、この資料は現在でも漆黒に輝いており、表面には顔を映すこともできます。資料を傷つけることなく材質を調べることができる蛍光X線分析装置を使って原資料の材質を分析したところ、錫の含有量が多い、鏡としてはたいへん良質な素材でつくられたものであることがわかりました。

今後、二つの鏡をさらによく調べることによって、二つが同范鏡なのかあるいは同型鏡なのかなど新しいことがわかるようになるかも知れません。(考古・保存科学担当 魚島純一)

新着資料の紹介

1994年3月から1994年5月の間に、いろいろな標本や資料を受け入れました。その中からおもなものを分野別に紹介します。

- 地学 異常巻きアンモナイト、三葉虫、貝化石(購入)
アケボノゾウ臼歯レプリカ(寄贈)
元素鉱物ほか岩石・鉱物(購入)
- 動物 タイオウメロンボラほか世界の貝(購入)
東南アジアの蝶(タテハチョウ科)(購入)
「阿部近一コレクション」陸貝ほか(寄贈)
- 植物 東祖谷の植物レプリカ(購入)
「阿部近一コレクション」さく葉標本ほか(寄贈)
- 歴史 阿波国大帳(複製)(購入)
阿波国麻植郡調査あしぎぬ【複製】(購入)
高知県柏原村「解放令」布達文書写(寄贈)
空襲警報発令中表示板ほか戦争関係資料(購入)
小勝島特攻隊基地関係資料(寄贈)
対空用機関銃薬莖(寄贈)
- 民俗 養蚕道具ほか(寄贈)
杠秤(寄贈)
- 美工 紺糸威具足(寄贈)

平成6年度
第2回企画展

祖谷—その自然とくらし

祖谷地方には、多様な自然が残されています。高山には、本州の亜高山や北海道、ひいては周北極地方と共通するような、北方系の生物が分布しています。また、人々が主な生活領域としてきた空間は、東アジアの山地部と共通した気候帯となっていて、生物相も類似しています。

山の豊かな自然との関わりの中で生きてきた人々は、その自然を活かしながら、確かな生活の技術を築いてきました。祖谷地方に見られる生活の技術には、遠く中国の雲南やネパールなど東アジアの山地での生活と共通する文化要素が多くあります。それらは、日本の文化の基層を流れるものと共通するものでもあります。

今回の企画展は、このような祖谷に残された多彩な自然とくらしについて、ご紹介しようというものです。祖谷の自然や文化についての理解を深めていただき、剣山などでの山登り、かずら橋観光の際などに、想いをめぐらせていただければと思います。



雑穀運搬用の竹かご（ネパール、国立民族学博物館蔵）



ネパールのシコクビエ（阪本寧男氏撮影）

●おもな展示内容

1. 高山の自然
 - ササ草原の植物、分布上特徴のある生物
2. ブナ林帯の自然とくらし
 - ブナ林帯の植物、昆虫、ほ乳類
 - シラクチカズラとかずら橋、木地師道具・製品、屋根ふき道具
3. ヤマの畑
 - ミツマタ関連道具、雑穀
4. 雑穀のきた道
 - ネパール、雲南の農耕関連資料、世界のシコクビエ

●会期 平成6年7月26日(火)～9月4日(日)
月曜日休館

●観覧料 大人200円、高校大学生100円
小・中学生50円



ミツマタ蒸し作業（俵裕氏撮影）



アイノミドリシジミ

記念講演会

「照葉樹林帯の文化」

- 講師 佐々木高明氏
(国立民族学博物館長)
- 日時 平成6年7月31日(日)
13:30～15:00
- 会場 21世紀館イベントホール
- 入場無料 どなたでも参加できます

◆◆情報ボックス◆◆

CD-ROMソフト【Dinosaurs!】 MEDIA DESIGN INTERACTIVE (ロンドン)

最近、ニュースや新聞などで「マルチメディア」ということばをよく聞くようになりました。これは、高性能のコンピュータ（特にパソコン）の機能を活用して、文字や図形ばかりでなく、音声や静止画・動画などを統合して扱うメディアのことをいいます。

今回、このようなマルチメディア対応のソフトウェアのうち、恐竜をテーマにした「Dinosaurs!」をご紹介します。この製品はイギリス製で、ナレーションや目次・索引などすべて英語であることをあらかじめお断りしておきます。現在、これと同じような内容の製品は6～7種類は入手可能です。大半は英語版ですが、日本語の製品もごく最近になって発売されました（Multimedia Newton「恐竜年代記」）。

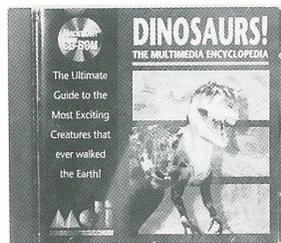
さて、「Dinosaurs!」の副題は、恐竜関係の「マルチメディア百科事典」です。その名のとおり、この1本で恐竜に関係したさまざまなことをひととおり知ることができるようになっていきます。

内容は大きく「ご案内」、「恐竜たちの時代」、「恐竜一覧」、「化石の物語」、「専門家に質問」、「恐竜ギャラリー」の6項目に分かれています。「恐竜たちの時代」のコーナーでは、中生代の古地理や恐竜の系統分類などのトピックスがとりあげられています。「恐竜一覧」のコーナーは216項目150種以上の恐竜についての解説です。チラノサウルスなど有名な恐竜の項目では、たいていイラスト・産地・動画（動く恐竜の模型の映像）や展示してある博物館などの情報が入っています。「化石の物語」のコーナーでは、恐竜の研究史・発掘から組立までの様子などを知ることができます。「専門家に質問」のコーナーでは、大英自然史博物館のミルナー博士など3人の恐竜の研究者が、30項目の質問（「恐竜の血は暖かだったか」など）に答えています。

全体を通してみると、恐竜について、動画や音声を利用して楽しく学べる内容になっています。しかし、このソフトに収録されているイラストや動画の模型は、最近の臨場感のある模型やコンピュータグラフィックと比べるといくぶん古めかしい感じがします。また、「恐竜一覧」には、表示されない項目やデータが抜けているところがよくあるため、完全には信用しない方がいいでしょう。

このような商品は、それを利用できる機器のこともやソフト自体の金額のこともあり、すべての人におすすめできるものではありませんが、マルチメディアに興味のある人、英語の勉強（特にヒアリング）を兼ねて恐竜についての知識を気楽に楽しく得たい人におすすめします。

このようなマルチメディア百科事典は今後増えている

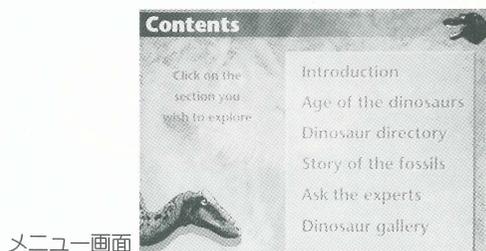


「Dinosaurs!」のパッケージとCD

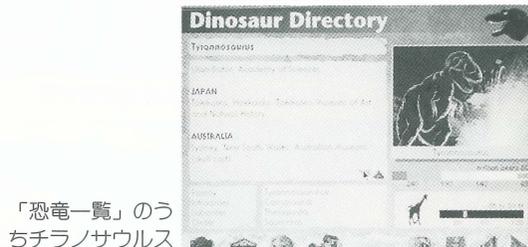
くと予想されます。恐竜の分野に限らず、たのしく正確な内容の日本語版ソフトがいろいろと登場してほしいところで。

なお、この文を作成するにあたっては、マッキントッシュ版の「Dinosaurs!」を参照しました。このほかに、Multimedia PC対応版があるようですが、こちらの方は未見です。利用には、パソコン本体のほかに、CD-ROMドライブが必要です。日本の輸入ソフト販売会社を通して買った場合の価格は1万前後です。

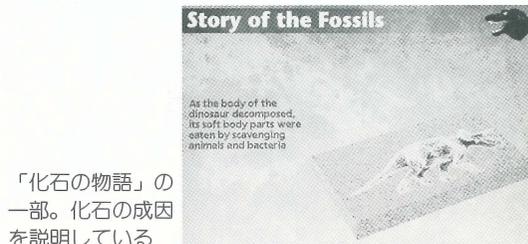
(地学担当 中尾賢一)



メニュー画面



「恐竜一覧」のうちチラノサウルス



「化石の物語」の一部。化石の成因を説明している



レファレンスQ&A



Q 徳島の郷土料理に使われる「そば米」ってなんですか？

A 「そば米」はそばという名前がついてますが、つるつると食べる長いそばとは、見かけは全くちがいます。それでは、米なのでしょうか？じつは、これらは加工の仕方がちがうだけで、まったく同じ穀物、中央アジア原産のタデ科の植物であるソバの実なのです。

大陸から日本にソバがもたらされたのは古い時代のことで、縄文時代の遺跡から花粉や種子が発見されています。ソバの栽培も奈良時代にはすでに始まっていました。種まきから収穫までの期間が非常に短く、やせ地や高冷地でも栽培可能なため、かつては、他の作物には適さない山地でも、焼畑農業によってさかんに栽培されていました。

収穫され乾燥させたソバは、まず、脱穀されます。この状態では、まだ、殻がかぶったままの「玄そば」です。この玄そばを石臼などでひいて粉にして使う場合があります。熱いお茶をかけてねっただけの「そばねり」や、

塩を加えてお湯でねってだんごの形にした「そばだんご」などがそうです。私たちがふつうよく口にする長いそば、「そば切り」もそば粉から作ります。「そば切り」はそば粉だけで作るときもありませんが、小麦粉などを混ぜて、切れにくくすることもあります。これらの粉をよくこねて、めん棒でのばして細く切り、ゆでるのです。このようなそば粉を使った料理は、北海道から鹿児島に至るまで、日本各地で広く食べられています。

一方、徳島の「そば米雑炊」のように粒のままそばを食べる習慣は、粉にひいて使う方法よりも古くからあったものと考えられますが、現在ではあまり残っていません。徳島、香川、高知のほか東北などに、雑炊や雑煮、汁、飯が伝承されているだけです。このような料理では、玄そばから殻をとった丸い粒が使われます。この丸いそばの粒を徳島では「そば米」といつているのです。

そば粉にそば米、私たちはいろいろな食べ方でそばに親しんできました。しかし、最近では、その栽培面積も減り、輸入そばが多くなっています。

(民俗担当 福田珠己)

友の会の活動紹介



友の会野外行事「潮干狩り」平成6年4月24日(日)

この行事は、鳴門ウチノ海に貝毒が発生したために、急ぎよ場所を小松島市の和田島町松田新田に変更するという事態となりましたが、43名の会員が集い実施さ

れました。遠浅の海岸ですが、少し潮の引きが悪かったため、あまり沖の方へ行けず、今ひとつ「漁獲」があがらなかったのは残念でした。それでも2時間近く楽しみながら貝を掘り、いろいろな種類の貝がとれました。最後には、全員で当日の「漁獲」を持ちよって見せ合い、学芸員からの貝や海辺の動物の説明に興味深く耳を傾けました。



平成6年度 博物館友の会会員募集中!!

会員になって、活動しませんか。

くわしくは、徳島県立博物館友の会事務局までお問い合わせください。Tel.(0886)68-3636

8月から10月までの博物館普及行事 あなたも参加してみませんか？

シリーズ	行 事 名	実施日	実施時間	対象（人数）
ミュージアムツアー	古代史探訪-阿波忌部の世界1-	9月24日(土)	14:00~15:30	小学生から一般(50人)
	古代史探訪-阿波忌部の世界2-	10月22日(土)	14:00~15:30	小学生から一般(50人)
土曜講座	* 祖谷-その自然と暮らし2-	8月13日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50人)
	* よみがえる古代の技術	9月10日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50人)
	* 動物を分類する方法	10月8日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50人)
野外自然かんさつ	地層と化石・岩石のかんさつ	8月28日(日)	13:00~15:00	小学5年生から一般(30人)
	河口のいきもの	9月4日(日)	10:00~13:00	小学生から一般(50人)
	鳴く虫のかんさつ	9月17日(土)	19:00~21:00	小学生から一般(20人)
	秋の植物と昆虫	10月16日(日)	13:00~16:00	小学生から一般(30人)
名前の調べ方	草や木の名前の調べ方	8月6日(土)	13:00~16:00	小学生から一般(36人)
	* 標本の名前を調べる会	8月23日(火)	10:00~16:00	植物、昆虫、貝、岩石、化石など
		8月24日(水)	10:00~16:00	植物のみ
室内実習	顕微鏡で見る鉱物	9月11日(日)	13:00~16:00	小学5年生から一般(30人)
	小さな化石	10月30日(日)	13:00~16:00	小学5年生から一般(30人)
標本の作り方	貝の標本の作り方	8月7日(日)	13:30~15:30	小学生から一般(30人)
歴史散歩	寺町を歩こう	10月2日(日)	9:30~12:00	小学生から一般(35人)
体験学習	土器づくり(成形)	10月23日(日)	13:00~16:00	小学生から一般(36人) 11月20日(焼成)に参加できる人に限る
企画展記念講演会	* 稲作の伝来と瀬戸内の初期農耕文化 愛媛大学教授 下條信行氏	10月9日(日)	13:30~15:00	21世紀館イベントホール

- * は申込み不要です。その他は往復はがきでお申し込みください。(各行事の1カ月前から10日前までに届くように)
- くわしいことは博物館にお問い合わせください。

☀ 4月から6月までの行事は、全部で13回行われました。参加者は867人でした。

☀ 毎月第2土曜日には土曜講座を行っており、4月9日は「恐竜の世界」、5月14日は「古代人と動物たち」のタイトルで行われました。「恐竜の世界」では、博物館にあるチラノサウルスを中心に恐竜の調べ方や生活の様子、なぜ絶滅したのかをわかりやすく聞くことができました。「古代人と動物たち」では、縄文時代や弥生時代の遺跡から発見されている、たくさんの動物の骨や、動物たちを描いた土製品・銅鐸などから、古代人と動物たちのかかわりについて説明を聞きました。そのなかで、イヌの血球ヘモグロビン遺伝子を調べることで、現在の日本犬はどこから渡ってきたかが推測できることに驚いたようでした。

土曜講座は申し込みが必要ありませんので、これからお気軽にご参加ください。

☀ 4月10日(日)に野外自然観察「磯の動物」が海南町大砂海岸で行われました。腰を落ちつけて水の中を眺めると、いろいろな貝、カニ、イソギンチ

ャク、ウニ、ヒトテがいました。石のうらには、ホヤ、ヒラムシ、ウロコムシなどグロテスクなものが出て関心を引いていました。

☀ 5月1日(日)には、野外自然観察「春の植物と昆虫」が行われました。眉山の山道を歩きながら、森のようす、落葉樹の開き始めた葉の姿、コナラ・フリ・クヌギのちがいなどを観察しました。また、花に群がる昆虫や葉を食べている幼虫などを観察し、チョウの飛行経路を学びました。このように、身近な山の自然を観察することによって、普段には、見過ごしている生き物の世界を観察することができました。

